

公安委員会定例会議(第15回)の開催状況

第1 日 時 令和元年6月12日(水)

午後1時30分 ～ 午後5時10分

第2 出席者 渡部委員長、増田委員、曾我部委員

本部長、総務室長、警務部長、首席監察官

生活安全部長、刑事部長、交通部長、警備部長

警察学校長、情報通信部長、総務課長

第3 議事の概要

1 委員長説示

毎年6月1日は、「人権擁護委員の日」です。人権擁護委員は、地域の人達から人権相談を受けたり、人権被害からの救済活動のほか、人権について関心を持ってもらうための啓発活動を行っています。

私が人権擁護委員として初めて電話相談を受けた時、相談というより罵詈雑言が1時間近く続き、最後は、用事があるからと言って一方的に電話を切られてしまいました。

それ以降も、いろいろな思いや悩みを持つ方から相談を受けることがあり、相談内容に自分が的確に対応できたのだろうかと思ひ悩むこともたびたびでした。それでも私が丁寧に話を聞くだけで相手の気持ちも晴れることもあるのではないかと思うようになりました。

相談する側は、藁をも掴む思いで知らない人に相談するのですから、とても勇気があることだと思います。こんな時に素っ気なくあしらうと、ますます相手は孤立してしまい、過った方向に行ってしまう兼ねません。

警察はさまざまな相談が寄せられており、相談相手の話をしっかりと聞くということはとても重要で、犯罪防止にも繋がると思います。相談業務は警察の大事な活動の一つであるということを認識していただき、相手に対する優しさと思ひやりある対応に努めてほしいと思います。

2 決裁事項

(1) 公安委員会定例会議の会議録について

総務室から、令和元年第14回公安委員会定例会議の会議録について伺いがあり了承した。

- (2) 公安委員会表彰について
交通部から、公安委員会表彰（感謝状）の決定について伺いがあり了承した。
- (3) 交通規制の実施について
交通部から、交通規制の実施について伺いがあり了承した。
- (4) 運転免許の行政処分に係る意見の聴取・聴聞について
交通部から、運転免許の行政処分に係る意見の聴取及び聴聞結果について報告があり、審議の結果28件の行政処分を決定した。
- (5) 警察職員の援助要求について
警備部から、警察職員の援助要求及び援助要求に対する回答について伺いがあり了承した。

3 報告事項

- (1) 警察記念日表彰式の開催について
首席監察官から、警察記念日表彰式の開催予定について報告があった。
- (2) 監察案件に関する報告について
首席監察官から、監察案件に関して報告があった。
- (3) 夏山山岳警備救助訓練の実施について
生活安全部長から、令和元年度の夏山山岳警備救助訓練の実施について報告があった。
- (4) 交通重大事故防止3か月対策（第3期）の推進方針について
交通部長から、交通重大事故防止3か月対策（第3期）の推進方針について報告があった。
- (5) テロ対策愛媛パートナーシップ推進会議第3回総会の開催について
警備部長から、テロ対策愛媛パートナーシップ推進会議第3回総会の開催について報告があった。
- (6) G20大阪サミット対策に向けた連合県機部隊出発式について
警備部長から、G20大阪サミット対策に向けた連合県機部隊出発式の予定について報告があった。
- (7) 警衛警備の実施結果について
警備部長から、警衛警備の実施結果について報告があった。
- (8) 令和元年度初任科生に対する採用時教養の現状について
警察学校長から、令和元年度の初任科生に対する採用時教養の現状に

ついて報告があった。

委員から

◇ 人材育成には、やらされているという思いを抱かせることなく、何のためにやっているのか、その目的をしっかりと理解させることが大事になる。

との発言があった。

(9) 苦情の受理及び処理状況について

総務室から、本年の苦情受理及び処理状況について報告があった。

(10) 特殊詐欺事件の検挙について

刑事部から、特殊詐欺事件の検挙について報告があった。

(12) 道路交通法違反事件の検挙について

交通部から、二輪車集団暴走に係る道路交通法違反の検挙について報告があった。

4 その他

委員から、「翻訳アプリの面白い訳し間違いが新聞記事に載っていたが、A I (人工知能)を過信することなく、それを使う人間もチェックを怠ってはならないということを示している。また、万引きしそうな客の動作を察知して店員に注意を促す防犯システムでは、A Iが人間の能力を補っており、最近起きた無人運転電車の逆走事故も含め、今後ますます人間とA Iとの関係について考察を深める必要があると各種の報道を読んで感じた。

他県では保育園児2人が被害者となる痛ましい交通死亡事故が発生するなど、国内の交通事故は、諸外国に比べて歩行者が犠牲となる割合が非常に高いといわれている。

県警察においては、交通事故抑止のために、これまで発生した事故状況の分析に基づき、歩行者被害の事故を抑止しているところであるが、本年下半期に向け、引き続き情報分析による有効な対策にしっかりと取り組んでほしい。」との発言があった。

以上